

# I 経済の活性化

## 5 林業・木材産業の振興

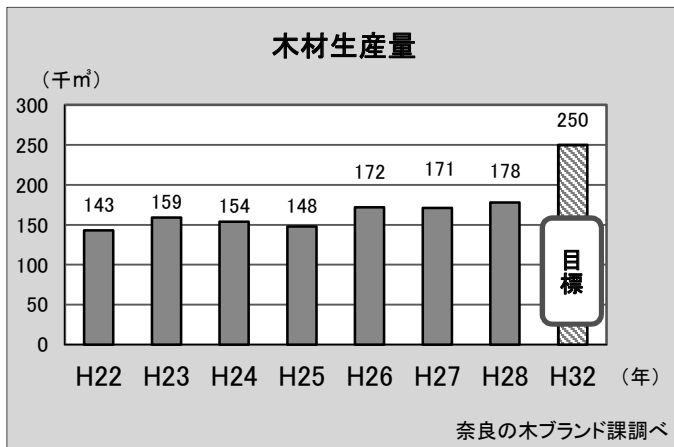
主担当部局(長)名  
農林部長 福谷 健夫

### 目指す姿

県産材の安定供給と利用拡大を図るとともに、森林の有する多面的機能を発揮させるため森林の適切な保全と活用を図ります。

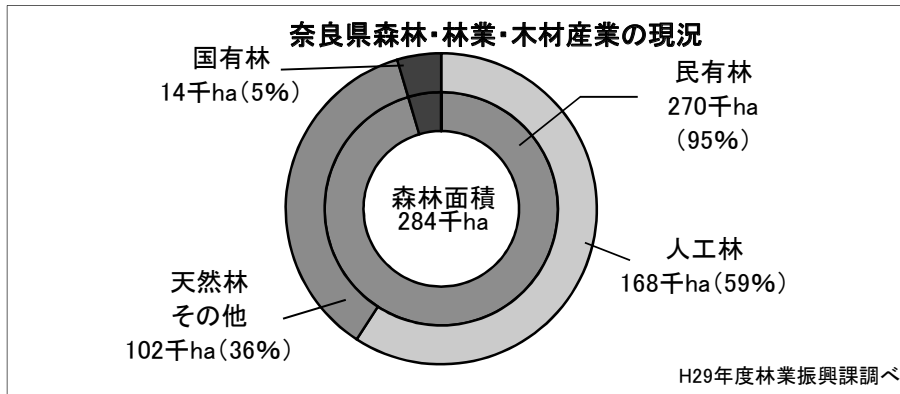
関係部局(長)名:総務部長 辻本 浩司、地域振興部長 村田 崇、南部東部振興監 山本 尚、くらし創造部長 梶田 斉志、景観・環境局長 梶田 斉志、産業・雇用振興部長 中川 裕介、まちづくり推進局長 金剛 一智、教育長 吉田 育弘

### 1. 政策目標達成に向けた進捗状況

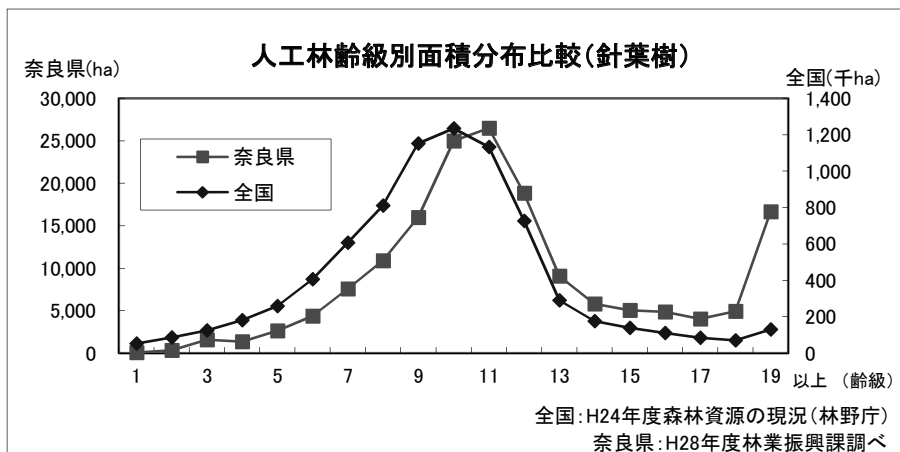


目標	平成32年までに、木材生産量を25万m <sup>3</sup> (A材148千m <sup>3</sup> 、B材 44千m <sup>3</sup> 、C材 58千m <sup>3</sup> )に増やします。(H25年度: 14.8万m <sup>3</sup> )
取組	奈良型作業道の整備等への重点支援や県産材を使用した木造住宅建設への支援等を実施しました。
成果	昭和40年代から平成19年にかけて木材生産量は減少の一途でしたが、下げ止まりの様相を見せており、平成26年から増加傾向で推移しています。平成28年は17万8千m <sup>3</sup> と、目標値(H32年: 25万m <sup>3</sup> )の約71%の達成率です。

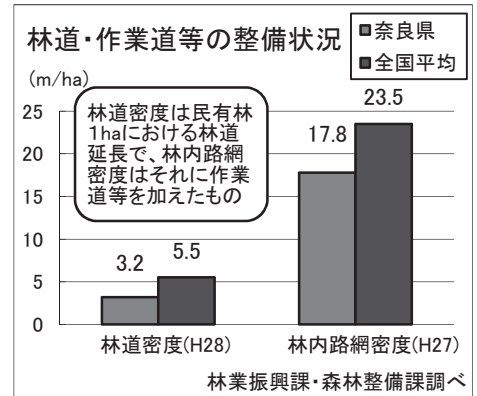
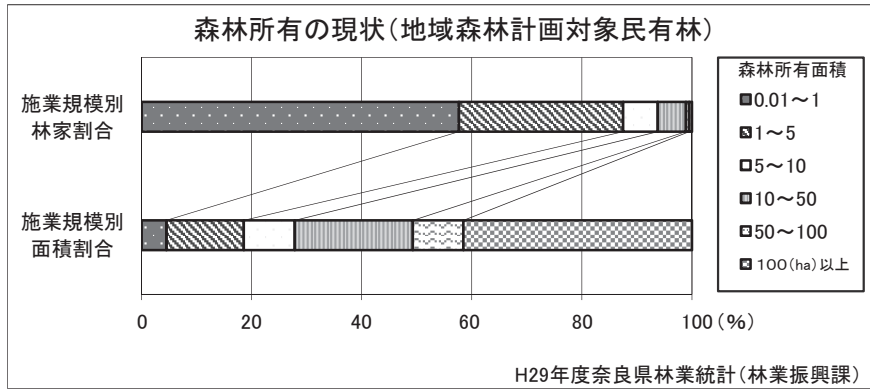
### 2. 現状分析



森林の大部分(95%)は民有林で、うち59%がスギやヒノキ等の人工林となっています。

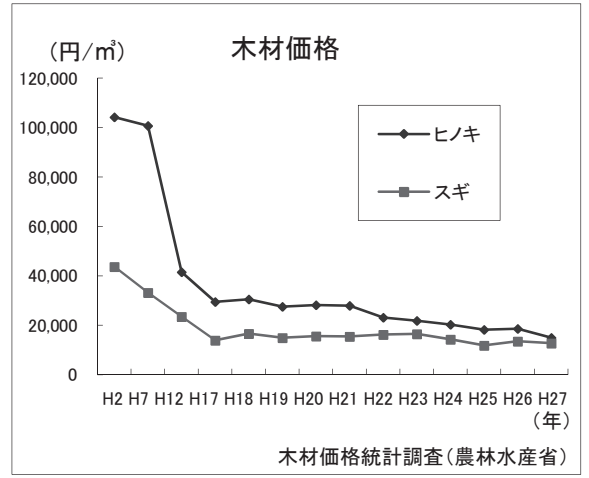
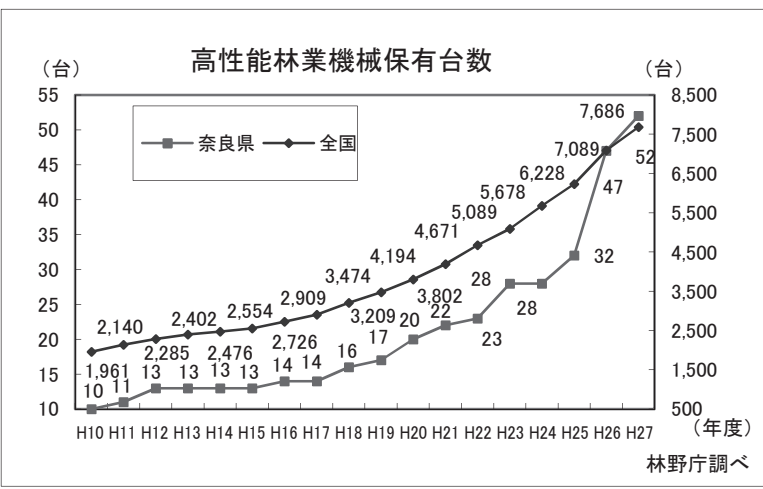


戦後造林された森林が多く、除間伐等の手入れの必要な3から12歳級の森林が70%を占めている状況です。



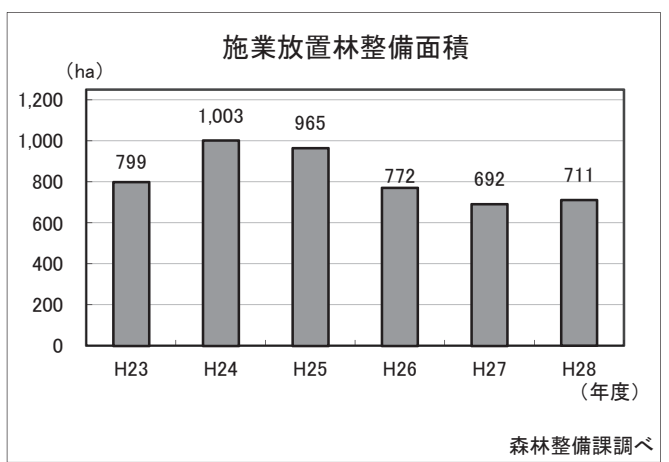
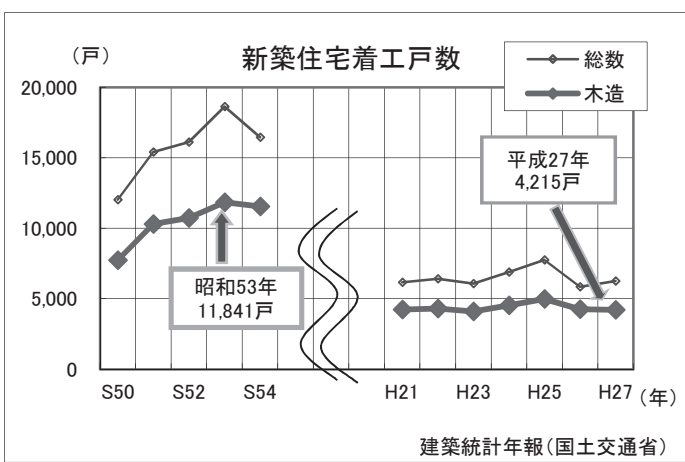
所有森林面積が5ha未満の小規模所有林家が87%を占める一方、所有森林面積50ha以上の大規模所有林家が全森林面積の約半分を所有しています。

急峻な地形等から、林内の路網整備は全国平均を下回っている状況です。



全国と同様に、高性能林業機械の導入台数は増加傾向です。

木材価格は平成7年以降急落し、平成17年以降は、漸減から横ばいで推移しています。



主要な木材需要先である新築木造住宅着工戸数は低調に推移しています。

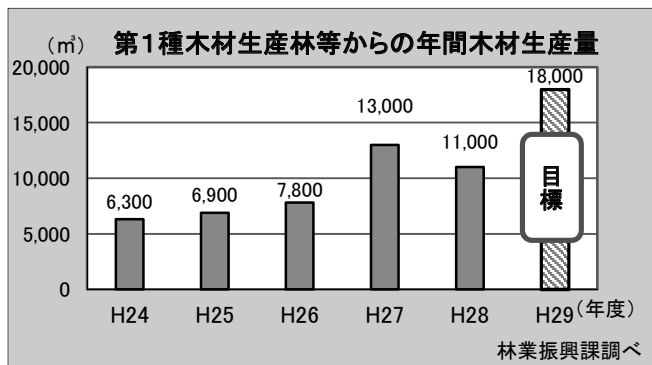
平成18年度に導入した森林環境税を活用して、施業放置林の整備(強度間伐)を継続して実施しています。

### 3. 戦略目標達成に向けた進捗状況

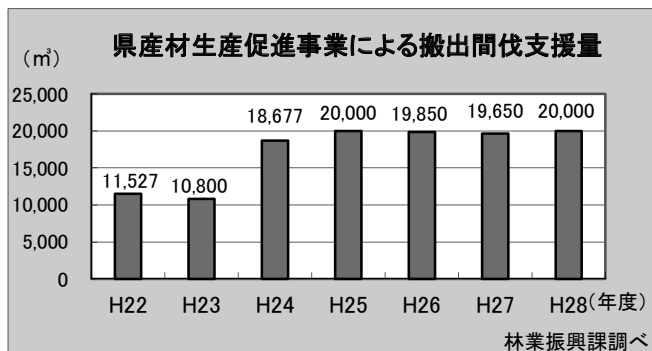
戦略1 A・B・C材全てを搬出して多用途に供給する林業への転換を図ります。

主担当課(長)名 林業振興課長 熊澤 弘治郎

戦略目標	①平成29年度に、儲かる林業施業提案森林及び第1種木材生産林からの木材生産量を、18千m <sup>3</sup> に増やします。(H25年度:5千m <sup>3</sup> ) ②平成29年に、間伐事業におけるB・C材の搬出量を35千m <sup>3</sup> に増やします。(H25年:19千m <sup>3</sup> )
------	---



取組	第1種木材生産林において、搬出コスト低減を図るため、奈良県の地域特性を踏まえた壊れにくい奈良型作業道の開設支援を行うなど、林内路網の整備を推進しました。(①)
成果	第1種木材生産林における奈良型作業道整備の重点支援や、高性能林業機械の導入支援等により、平成28年度の第1種木材生産林等からの木材生産量は11,000m <sup>3</sup> となり、前年度と比べ減少しましたが、平成24年度から増加傾向にあります。



取組	未利用間伐材の搬出を進めるため、A・B・C材全ての材を補助対象として、県産材生産促進事業に取り組みました。(②)
成果	平成28年度は、20,000m <sup>3</sup> の搬出間伐に対して支援を行いました。

主な取組指標等	平成26年度	平成27年度	平成28年度	担当課名
儲かる林業施業予定森林を掘り起こし、森林所有者と素材生産業者とをマッチング(①)				
儲かる林業施業提案林における施業実施件数(件)	—	4	5	林業振興課
奈良型作業道や林道、架線集材施設等による木材生産の拡大(①)				
第1種木材生産林の団地数(団地)	→ 8	→ 9	→ 10	林業振興課
林道・作業道等の開設延長(m)	47,771	60,688	56,898	林業振興課

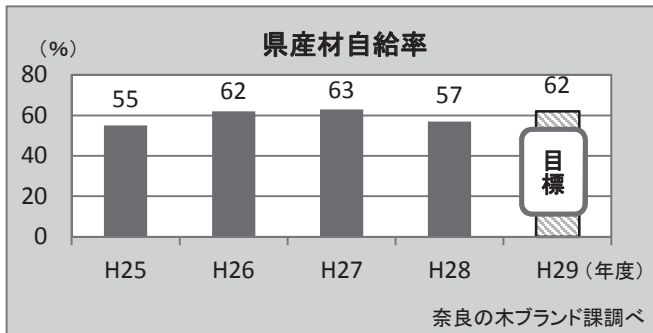
#### これまでの成果

- ・第1種木材生産林において、特に急峻な地域については路網と連携した架線集材により、奥地の木材を搬出するための事業を実施(架線集材施設設置支援事業:2事業体、設置延長:2,600m)しました。(①)
- ・国が平成23年度より創設した森林環境保全直接支援事業等を活用し、林業事業者の木材生産活動を支援しました。平成28年度は、利用間伐(間伐材を搬出・利用)を59,000m<sup>3</sup>(H27年度:62,000m<sup>3</sup>)出材しました。(②)
- ・森林所有者へ施業プランの提案等の働きかけができるように、森林地理情報システム(森林GIS)を使い、「儲かる森林」の候補となる条件が整っている森林を抽出しました。(①)

戦略2 A・B・C材毎の受け皿の確保及び県産材製品の安定流通の実現を図ります。

主担当課(長)名 奈良の木ブランド課長 中村 吉代茂

戦略目標	①平成29年度までに、大規模製材工場と川上との直接安定取引契約を5件締結します。(H25年度:0件) ②平成29年度に、公共事業や公共建築物での県産材使用量を7千m <sup>3</sup> に増やします。(H25年度:5千m <sup>3</sup> ) ③平成29年度に、県産材の自給率を62%まで向上させます。(H25年度:55%)
------	---



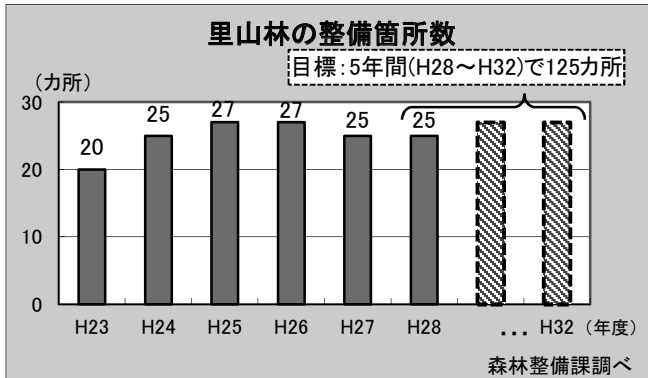
取組	県産材自給率の増加を図るため、県産材の安定供給体制を整備しました。(③)
成果	県産材の安定供給体制の整備により、県産材素材生産量は増加しましたが、特にC材における他県産材入荷量の増加により、県産材自給率は前年度よりも6ポイント減少し、57%となりました。

主な取組指標等	平成26年度	平成27年度	平成28年度	担当課名
<b>A・B・C材毎の受け皿の確保と競争力のある製材・加工・流通体制の構築(①)</b>				
大規模製材工場と川上との直接安定取引契約件数(件)	—	—	1	奈良の木ブランド課
製材用材の生産量(千m <sup>3</sup> )	139	108	131	奈良の木ブランド課
<b>県産材製品の販路開拓及び多用途での利用拡大(②)</b>				
首都圏で開催した「奈良の木」の講演会参加者数(人)	100	80	200	奈良の木ブランド課
海外販路開拓セミナーの参加者数(人)	—	—	116	奈良の木ブランド課
「奈良の木の匠養成講座」の修了者数(人)[累計]	—	160	311	奈良の木ブランド課
県産材を使った学習机・いす等を導入した学校数(校)[累計]	7	14	15	奈良の木ブランド課
公共事業等における県産材使用量(m <sup>3</sup> )	3,000	5,330	4,729	奈良の木ブランド課
県産材利用住宅への助成件数(件)	70	252	157	奈良の木ブランド課
木質バイオマスを利用したボイラー施設数(施設)[累計]	19	22	23	奈良の木ブランド課
<b>川下・川中・川上が連携した県産材の利用拡大を図る取組の推進(③)</b>				
「奈良の木マーケティング協議会」登録事業者数(社)[累計]	167	257	275	奈良の木ブランド課
「奈良の木ツーリズムコースマップ」作成件数(件)[累計]	—	1	2	奈良の木ブランド課

### これまでの成果

- ・「奈良の木」贈り物の商品化に向けて、平成27年度に10点、平成28年度に8点のデザイン開発・試作を行いました。(②)
- ・奈良の木の新たな魅力を発見する目的で、木材の健康効果を確認する実証試験を行ったところ、奈良県産スギ材とヒノキ材が高い健康効果を持つことが証明されました。(②)
- ・県産材のブランド向上に向けて、奈良の木のPR戦略の基盤となるポータルサイト及び話題喚起のためのPR動画を制作しました。(②)

戦略目標	①平成34年度に、多面的機能を持った森林整備面積を67,344haに増やします。(H27年度: 63,291ha) ②平成28年度から平成32年度までの5年間で、里山づくりのための整備を125カ所実施します。(H26年度: 27カ所) ③有害獣であるニホンジカを毎年度8,000頭捕獲します。(H26年度: 8,105頭)
------	---



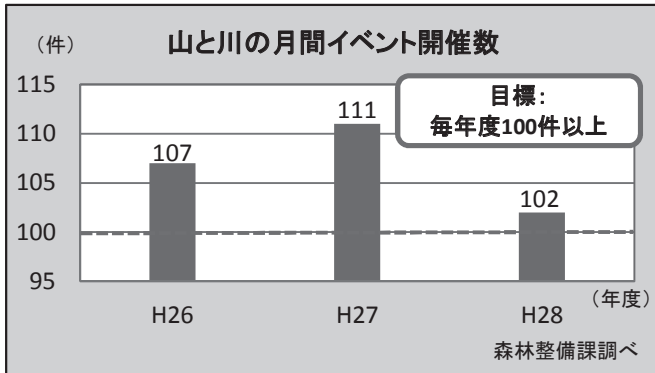
取組	里山林の整備に取り組みました。(②)
成果	NPO等の協力により、荒廃した里山林を整備していますが、整備団体の技術的な要因から実績が伸び悩んでいることから、専門家による整備も導入し、平成28年度は25カ所の里山林を整備しました。

主な取組指標等	平成26年度	平成27年度	平成28年度	担当課名
「環境保全林」の整備・保全推進(①)				
多面的機能を持った森林整備面積(ha)	—	63,291	63,315	森林整備課
森林環境管理制度の導入(①)				
欧州型森林管理の普及啓発のためのワークショップ開催回数(回)	—	7	6	新たな森林管理体制準備室
山地災害の予防と復旧(①)				
治山事業の工事完成箇所数(カ所)	41	47	49	森林整備課
森林生態系の保全推進(①,③)				
ナラ枯れ対策実施市町村に対する補助市町村数(市町村)	—	2	6	森林整備課
野生鳥獣被害防止対策のためのニホンジカの捕獲頭数(頭)	7,882	8,539	8,123	農業水産振興課

これまでの成果

- ・新たな森林環境管理体制を進めるため、平成28年11月に、スイス・リース林業教育センターと林業の人材育成に関する覚書を締結しました。(①)
- ・ニホンジカによる森林・林業被害について、増えすぎた個体数を適正頭数へ誘導するため、狩猟者の育成・確保を実施し、新規狩猟免許取得者数は209人、狩猟免許所持者数は2,130人となりました。(②)

戦略目標	①山と川の月間イベントを毎年度100件以上開催します。(H26年度:107件) ②平成28年度から平成32年度までの5年間で、森林環境教育の指導者を50人育成します。(H26年度:13人)
------	---



取組	森林内での体験活動等を通じて、森林を守り育てる意識の醸成を図るため、イベントを開催しました。(①)
成果	平成28年度は、山と川の月間イベントを102件開催し、目標の100件以上を達成しました。

主な取組指標等	平成26年度	平成27年度	平成28年度	担当課名
森林に関する理解の促進(②)				
森林環境教育指導者養成研修受講者数(人)	105	82	87	森林整備課

これまでの成果

- ・森林環境教育の指導者の育成に取り組み、平成28年度は11人の指導者を育成しました。(②)
- ・里山づくりについて、奈良県森林環境税を活用して平成18年度から取り組んでおり、平成28年度までの間で、NPOやボランティア団体(延べ23,588人)が整備に携わりました。その整備した森林を、延べ23,335人が森林環境教育等で利用しました。(②)



#### 4. 平成30年度に向けた課題の明確化

**＜政策目標達成に向けた進捗状況＞**  
 昭和40年代から平成19年にかけて木材生産量は減少の一途でしたが、下げ止まりの様相を見せており、平成26年から増加傾向で推移しています。平成28年は17万8千㎡と、目標値(H32年:25万㎡)の約71%の達成率です。

**＜戦略目標達成に向けた進捗状況＞**  
 ・第1種木材生産林における奈良型作業道整備の重点支援や、高性能林業機械の導入支援等により、平成28年度の第1種木材生産林の木材生産量は11,000㎡となり、前年度と比べ減少しました。  
 ・県産材の安定供給体制の整備により、県産材素材生産量は増加しましたが、特にC材における他県産材入荷量の増加により、県産材自給率は前年度よりも6ポイント減少し、57%となりました。  
 ・NPO等の協力により、荒廃した里山林を整備していますが、整備団体の技術的な要因から実績が伸び悩んでいることから、専門家による整備も導入し、平成28年度は25カ所の里山林を整備しました。  
 ・平成28年度は、山と川の月間イベントを102件開催し、目標の100件以上を達成しました。

**＜奈良県の持っている強み＞**  
 1 人工林1ha当たりの蓄積量が高く、かつ100年生以上の高齢級林分が多いなど、森林資源は質、量ともに充実  
 2 密植多間伐の森林施業により年輪幅が狭く均一な木材が生産され、強度(ヤング率)が高い

**＜奈良県の抱えている弱み＞**  
 3 川上側(森林所有者、森林組合等)と川下側(丸太市場、木材協同組合、製材工場、工務店、設計士等)の連携が弱い  
 4 製材工場は小規模な工場の割合が高い(出力規模75kw未満の工場の割合…奈良県:80%、全国:63%)  
 5 小規模所有や不在村者の割合が高く、森林への関心や関与が弱まりやすい所有形態  
 6 吉野材に代表される高級材を選んで、ヘリコプターで搬出する林業が行われていたことによる、作業道の整備等並材等生産体制への対応の遅れ  
 7 植栽本数の多さなどから育林経費が高く、急峻な地形等から林内路網の整備や機械化が遅れ、木材生産の作業効率が悪い  
 8 林産物等への鳥獣被害・病虫害  
 9 行政、業界団体、事業者等によるイベントやPRが散発的で効果が十分に発揮されていない

**＜奈良県への追い風＞**  
 a 「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が成立(H22年)  
 b 農林水産省の「森林・林業再生プラン」(H21)に基づく、路網の整備、森林施業の集約化及び必要な人材育成を軸とした効率的かつ安定的な林業経営の基盤づくりの推進  
 c 地球温暖化防止対策としての森林整備推進  
 d 再生可能エネルギーに対する関心の高まり  
 e 地域型住宅グリーン化事業の実施

**＜奈良県への向かい風＞**  
 f 全国的に高齢化し、担い手が不足  
 g 全国的な高級材の木材価格の低迷  
 h 木造住宅の新規着工戸数の低迷  
 i ニーズの変化による銘木市場の低迷

**＜強みで追い風を活かす課題＞**  
**【重要課題】**木質バイオマスエネルギーの利活用の拡大(1,d)  
 ・公共建築物への県産材利用の拡大(1,2,a)

**＜強みで向かい風を克服する課題＞**  
**【重要課題】**県産材の首都圏等への販路開拓(ブランド力の強化)(1,g,h,i)  
**【重要課題】**ユーザーニーズに対応した新製品の開発(1,2,g,h,i)

**＜弱みを踏まえ追い風を活かす課題＞**  
**【重要課題】**低コスト集約化施業による利用間伐の推進(6,7,b)  
**【重要課題】**林業振興のための基盤整備(山地災害の予防・復旧)(6,7,b)  
**【重要課題】**森林環境管理制度の導入(5,b,c,d)  
 ・一般住宅での県産材利用の拡大(3,e)  
 ・森林所有者や林地境界に関する情報を整備するための林地台帳作成への支援(5,b)

**＜弱みを踏まえ向かい風に備える課題＞**  
 ・一般住宅での県産材利用拡大の促進(3,h)  
**【重要課題】**・ネットワークの中核となる製材工場の設立(4,f)  
 ・「奈良の木」の効果的な情報発信(4,9,g,h,i)  
**【重要課題】**搬出間伐材等の素材生産拡大の推進(6.g)  
**【重要課題】**施業放置林の整備(5,f,g,h,i)  
 ・県有林等の整備・管理(5,6,7,8,f)  
 ・多様な担い手による森林づくり(5,f)  
 ・林産物への鳥獣被害・病虫害対策(8,f)  
 ・森林に関する理解の促進(5,9.f)

## 5. 平成27年度の評価を踏まえ、平成29年度に向けて見直した課題、取組

見直した課題	見直した取組方針、見直した内容
森林環境管理制度の導入(戦略3)	奈良県に適合する新たな森林管理の仕組みの導入を進めていくため、環境面を重視しながら持続可能な森林管理を行っているスイスをお手本とした森林管理の推進に取り組むこととしました。

## 6. 重要課題についての今後の取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
木質バイオマスエネルギーの利活用の拡大(戦略2)	A・B・C材毎の受け皿確保として木質バイオマスエネルギーに着目し、原料木材の安定供給、エネルギーの有効利用、採算性の確保のもと、民間事業者による利用拡大を推進します。

弱みを踏まえ追い風を活かす課題	今後の取組方針
低コスト集約化施業による利用間伐の推進(戦略1)	木材生産コストを低減するため、まとまった施業区域において、奈良県の急峻な地形や地質にあった壊れにくい奈良型作業道の重点整備と林業機械の導入を支援し、A・B・C材全てを搬出し、効率的な利用間伐を繰り返し実施していきます。
林業振興のための基盤整備(山地災害の予防・復旧)(戦略3)	緊急度・重要度の高い箇所を優先し、早期に対策を実施します。
森林環境管理制度の導入(戦略3)	森林を活用した地域づくりと森林環境の適切な保全を図るため、植生や伐採、生態系保全等森林の全てを管理できる人材の育成と管理制度の構築を図ります。

強みで向かい風を克服する課題	今後の取組方針
県産材の首都圏等への販路開拓(ブランド力の強化)(戦略2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県産高級材の需要が見込まれる首都圏等へ積極的なPRを実施します。</li> <li>・新たな販路として海外市場の開拓を検討します。</li> </ul>
ユーザーニーズに対応した新製品の開発(戦略2)	ハウスメーカー等の具体ニーズと森林技術センターが有する技術シーズのマッチング研究を行い、新たな木材製品の開発を行います。

弱みを踏まえ向かい風に備える課題	今後の取組方針
ネットワークの中核となる製材工場の設立(戦略2)	工場設立に向けて検討会議を開催し、基本構想を策定します。
搬出間伐材等の素材生産拡大の推進(戦略1)	A・B・C材全てを搬出し、効率的な搬出方法が実践できる見込みのある「儲かる林業の施業」が可能な森林を発掘し、施業の提案を行います。
施業放置林の整備(戦略4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施業放置林の調査、森林所有者への普及啓発活動を推進します。</li> <li>・森林環境の改善のため、強度間伐等を実施します。</li> </ul>